

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券 丸の内投資セミナー 主な質疑応答

日時 : 2025 年 10 月 15 日 (水) 13 時 40 分~14 時 20 分

場所 : 丸ビルホール (東京都千代田区)

当社登壇者: 取締役上席執行役員 鈴木 健二

Q. 米国のトランプ関税の影響について教えてください。

A. 我々の米国でのアジアンフーズ事業では、日本と同じくチキン加工品と米飯類を主力商品としていますが、原材料調達や販売は全て米国内で行っているため、いわゆるトランプ関税の影響は軽微であります。

Q. 御社の強みについては理解できましたが、課題は何ですか。

A. 加工食品事業の利益率がボラタイルになっている点です。原材料は国内外から仕入れっていますが、この原材料価格が非常に不安定であることが原因と考えています。長期的には、調達先からの量や価格のバランスを見て原材料の市況の影響を和らげていくことが 1 つの課題と認識しています。

Q. EPS(1 株当たり純利益)が低く、それに伴い株価も低くなっているように思いますが、そちらについての対策はありますか。

A. EPS については、目標値の公表はしていませんが社内では重要視しています。当然株価にも影響してきますので、PER をもう少し高める必要があると考えています。そのために、投資家の方に海外成長戦略を理解していただけるよう、よりわかりやすく伝える努力が必要と認識しています。また、当社は食品セクターのアナリストに見ていただいておりますが、物流事業の成長機会についても更にご理解いただくことが必要であると考えています。

Q. 配当について DOE(連結自己資本配当率)4.0%を下限とされていますが、昨年は 4.5%となっておりました。日本企業の平均が約 3%と言われている中で高い水準であり、御社の今後の成長投資のためにある程度の内部留保が必要とは理解していますが、今後も 4.5%等引き上げていくことは可能でしょうか。

A. 当社は 2007 年度から DOE を配当基準として設定しています。これにより、株主の皆様にとってどれくらいが配当として受け取れるかがわかりやすくなっています。4%に引き上げたのは 2 年前です。昨年度は特別配当を実施したため、結果として 4.5%となっておりますが、基準としての考え方は 4%を下限という部分では変更ございません。ご認

識いただいている通り、成長投資とのバランスを見ながら配当の金額は決定していきたいと考えています。

以 上

※当文書は当日の質疑応答内容をすべて記録したものではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。